

# 育成年代におけるサッカー8人制の及ぼす影響に関する研究について —特に小学生から中学生初期について—

阿部 翔太 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード: 8人制, 育成, 個人能力

## 1. 緒言

日本サッカー協会は、育成年代強化のため2011年度から、小学生の主要大会を11人制から8人制に変更した。それに伴い大阪府サッカー協会は、中学1年生が対象のリーグ戦（前期8節、後期8節の全16節）の前期の8節を8人制で行っている。

しかし、指導現場での8人制の評価は低く、8人制反対の意見が非常に多い。自身は育成年代の指導を行っているが、8人制は育成年代にとって最適だと考えている。そこで、8人制と11人制のつながりを示し、指導現場の8人制の評価を変えたいと考えた。また、8人制と11人制のつながりを示し、8人制の影響を研究し自身の指導にフィードバックすることを目的とする。

## 2. 研究方法

自身の指導チームの映像を元に、8人制4節、11人制4節の全8節を研究対象とし、ゲーム分析を行う。シュート本数、PA内シュート本数、GKとの1対1の機会数、GKとの1対1の得点数、ボールタッチ回数、各ポジション別のボールタッチ回数、交代回数を研究項目とする。

## 3. 結果

8人制はピッチが狭く、自陣ゴールから相手ゴールまでの距離が近いので、選手全員がハードワークを必要とする。そのため、各ポジションに攻守両面において役割と求められることが大いにある。センターバックの選手が相手ゴール前に侵入しシュートを打つことや、フォワードの選手が自陣ゴール前まで帰陣し、シュート

を阻止する場面も見られた。そして、一人当たりのボールタッチ数は増加しており、ボールに関与している時間と選手数も増加していた。

また、PA内の攻防はとも増加し、1対1の局面の増加、選手全員がゴールを目指す意識を高めることが期待できる。そのため、対人能力の強さやチャレンジする意識を伸ばすことができ、技術力とプレースピードの向上がきたいでできる。1対1の状況でチャレンジする選手や狭いエリアでのボールタッチの正確さが11人制で見られたことから、8人制の効果が現れていた。

しかし、8人制は、周囲の状況、自身の状況を判断してプレーしなければいけない状況が少なく、試合の流れを考えてプレーしなくても、ボールに関与している局面だけの判断でプレーが多い。

## 4. 考察

8人制は選手の個人能力を高めることが期待でき、1対1の局面を作り出すことに適しており、選手の技術やプレースピードを向上できる。しかし、試合の流れを考えたプレーなどの技術の向上は難しい。

## 5. まとめ

指導者の存在が重要であり、育成年代の指導者が子どもたちの将来を考え、導くことが必要である。

## 6. 引用・参考文献

8人制サッカー競技規則

[www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf](http://www.jfa.jp/documents/pdf/eight/rules.pdf)

閲覧日: (2015年12月5日)